

2回戦

10年春季リーグ
第5週・5月18日
2勝0敗

青学大戦敗北をばねに

6連勝!!

大学初本塁打を放ち、三塁を蹴る赤木



駒大のリーグ最終戦は大荒れの試合となった。強風の影響もあり、両校合わせて10本塁打が飛び交う空中戦、制したのは駒大だ。初回到4点を先制するが、初登板の三浦亮(菅2)が追いつかれ、2回には逆転を許す。だが、直後に赤木義英(菅4)の大学初本塁打や奥野智也(経3)の適時二塁打が飛び出し再びリード。その後も点を取り合うが13対8で勝利を収めた。

7HRの猛攻で勝利 駒大13-8日大



2本塁打で3打点を挙げた北畠



3回、勝ち越し二塁打を放ちガッツポーズを見せる奥野

打線爆発! 16安打!
前戦のノーヒットノーランの余韻が冷めぬ中、今度は打線が大爆発した。「昨日はピッチャーに助けられたので、今日は助けられたかった」と笠間将裕(商4)主将。他の選手らも口をそろえ、その通り7本塁打と9安打で継投の投手陣を援護した。初回から先頭の岡将吾(法3)が右中間越本塁打を放つと、赤木が二塁打と犠打で進塁。山本祐大

(法4)の打球が相手の失策を誘い、加点する。続く北畠俊也(経4)が「三浦が初先発だったのでいっぱい点を取ってあげたかった」と右越2点本塁打でこの一回一挙4得点。2回到勝ち越されてからも赤木の大学初アーチで追いつくと、2死から四死球で出塁し、奥野が2点適時二塁打で勝ち越す。4回にも赤木、笠間の連打で好機を作ると山本の本塁打で3点を奪い、突き放す。その後は2点差まで追い上げられるが、岡と北畠に2本目の本塁打が出るなど逃げ切った。7本塁打も笠間は「本来の駒大野球はつなぐ野球なので、自分たちの野球を心がけた」と気を引き締めた。

駒大	403	300	210	13
日大	410	111	000	8

【駒大】	打安点
⑥ 岡	6 2 2
④ 赤木	5 4 1
③ 笠間	3 1 0
⑨ 山本	5 2 3
DH 北畠	3 2 3
② 上村新	4 1 0
⑧ 奥野	5 2 2
⑤ 白崎浩	4 1 1
⑦ 谷口	4 1 0
7 嘉数駿	1 0 0
計	401612

▽二塁打=赤木、奥野、笠間
▽本塁打=岡2、北畠2、赤木、山本、白崎浩

	回	打安責
三浦	1 0/3	9 3 5
小倉	1 2/3	5 0 0
○井口	3	13 4 3
板木	0 0/3	1 1 0
友滝	0 1/3	1 0 0
白崎勇	3	11 2 0

三浦ほろ苦デビュー
大学初登板はほろ苦いものとなった。初回到援護をもらい、緊張のマウンドに立った三浦。先頭打者から空振り三振を奪うと、「攻めた結果」の2者連続四球で走者を溜めてしまう。2死とするが、左前適時打と2点本塁打を浴び、同点とされる。2回にも本塁打を打たれリードを守りきれず、降板。

白崎勇がリベンジ!
昨秋の開幕戦で日大からサヨナラの本塁打を浴びた白崎勇(菅3)。その望みをつなぐ6連勝

「自分のピッチングが出来なかった」と肩を落とした。だが、小椋正博監督は「白崎勇も最初からあじやない。打たれて気持ちが強くなった」と2年生左腕の強気の投手へ期待を寄せた。

今季は8勝2敗という好成績を残した。青学大戦で連敗してからの「6連勝」を目指してきた。その

嫌なイメージを消すべく臨んだ1回戦では無安打無得点試合を達成。2回戦も4点リードの7回からマウンドに上がると、「キレがなく苦しいところもあった」というが、無四死球、被安打2に抑える好投。三振を奪うと、普段表情を変えない右腕が吠えるなど、気迫がみなぎった。この2試合で相手のイメージを「払拭出来た」と自信をつけた。拓大1回戦以来30イニング無失点。先発に抑えに活躍を見せ、6連勝に大きく貢献した。

「自分のピッチングが出来なかった」と肩を落とした。だが、小椋正博監督は「白崎勇も最初からあじやない。打たれて気持ちが強くなった」と2年生左腕の強気の投手へ期待を寄せた。

「自分のピッチングが出来なかった」と肩を落とした。だが、小椋正博監督は「白崎勇も最初からあじやない。打たれて気持ちが強くなった」と2年生左腕の強気の投手へ期待を寄せた。



初登板・三浦は5失点で降板

写真=橋本圭史 山田遼太郎
文=袴田麻友